慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	経済学会シンポジウム : 経済学の新たな挑戦 : 序
Sub Title	Keio economic society's symposium : New challenges in economics : preface
Author	河井, 啓希(Kawai, Hiroki)
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	2022
Jtitle	三田学会雑誌 (Mita journal of economics). Vol.114, No.4 (2022. 1) ,p.333 (1)- 336 (4)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	経済学会シンポジウム : 経済学の新たな挑戦
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-20220101-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

「三田学会雑誌」114 巻 4 号（2022 年 1 月）

経済学会シンポジウム
――経済学の新たな挑戦――

河井啓希 *

経済学会シンポジウムは，慶應義塾経済学会員の親睦を目的として 1965 年から実施され，本年で 18 回目となる。最近は隔年で実施されているが，こうした研究交流を継続しておこなうことは実は困難である。というのも，本学経済学部教員の専門分野は多岐にわたっており，研究へのアプローチの方法も大きく異なっているからである。さらに学事や個々の研究活動に忙殺されているため，異なる分野の教員間で，それぞれの研究に触れる機会などほとんどないのである。このような状況下で，経済学会シンポジウムは，多様性に富んだ経済学部教員同士が，他分野の様々な最新の研究成果に触れることで，大きなシナジー効果を生むことを期待して，定期的に実施されているのである。

本年度の開催は，昨年から続く新型コロナウイルスの影響で対面の会議がなかなか開けないなか，開催自体が危ぶまれたが，対面と online を併用することで，実に多くの方々にご参集いただくことができた。

本年度は，2021 年 11 月 18 日の三田祭準備日に新任教員の方々に報告をお願いして，慶應義塾大学三田キャンパス北館 3 階の大会議室において開催された。

経済学会は，経済学部教員の研究について学部学生諸君に向けて紹介するために，このシンポジウムで報告をおこなった方々の研究に関する論文を寄稿していただいた。

今回のシンポジウムでは，橋口勝利教授，小西祥文教授，千賀達朗准教授，笹原彰准教授，加島潤教授，牧野邦昭教授，白塚重典教授による 7 つの報告があった。

シンポジウム第 1 報告の橋口勝利教授による「近代日本の繊維産業と地域経済」では，近代日本の産業革命の先駆的な役割を担った綿紡績産業をとりあげて，綿紡績業の誕生・成長・衰退の歴史，紡績業に関わった起業家の活躍，紡績業の発展にともなう都市と地域の発展について貴重な資料を整理した研究が紹介された。橋口教授の一連の研究は『近代日本の工業化と企業合併』京都大学学

＊ 慶應義塾大学経済学部

術出版会（近刊）としてまとめられるが，本号に掲載される論文も，産業史に関心がある研究者，院生，学生にとって有益な論文になると思われる。

続く第 2 報告の小西祥文教授の「脱炭素政策と環境実証」では，電力部門の脱炭素化に関する多数の実証研究から得られた知見をもとに，日本の脱炭素政策に求められている観点と今後の研究の問題点が指摘された。学術的には，再生可能エネルギーの真の社会的費用を評価し，電源コストに反映させるべきことと電力供給の優先事項をいかに進めるべきかが問われているという。小西教授は，課題に関する 3 つの米国の実証研究を紹介しながら，日本の脱炭素政策に求められる制度設計や施策を提案した。本号に掲載される展望論文は，これから環境実証に挑戦する学生への学問のすすめにもなっており，興味がある読者に是非とも一読をお薦めする。

次の第 3 報告は，千賀達朗准教授の「企業による期待形成――サーベイに基づく観察事実――」である。期待は，マクロ経済学でもミクロ経済学でも，重要な役割を持つが，理論的には合理的期待を仮定することが多いものの，その実証的な妥当性についてはあまり研究がされてこなかった。これに対し千賀准教授が経済産業省「海外事業活動基本調査」の売上予測データを利用しておこなった企業の予測に関する研究が紹介された。そのなかで予測と市場情報の関係，予測の不偏性，予測精度と学習（操業年数）の関係，予測誤差の性質について興味深い実証研究が紹介された。最近の研究として，期待と設備投資の関係，Covid19 の影響などの研究の紹介もあったが，残念ながら本号に掲載する期日には間に合わなかったので，今後の研究発表に期待されたい。

第 4 報告では，笹原彰准教授の「チャイナショックの影響の実証分析：手法の整理と文献サーベイ」と題した展望研究が紹介された。チャイナショックとは安価な中国製品の流入が各国の雇用の減少など多方面で生じる影響をさすが，笹原准教授は，チャイナショックに関する自身の研究を含めた数多くの研究を整理し，計量経済学的手法，国別の研究結果，様々な分析対象（経済面だけでなく政治・健康・犯罪など）の整理を試みた。とりあげられている研究蓄積は膨大だが，解りやすく整理されているので，本号に掲載されているサーベイ論文は，これから研究を進めようとする研究者，院生，学生にとって有益な資料となると思われる。

続く第 5 報告では，加島潤教授の「東アジア工業化と中国社会主義体制」と題する研究報告がおこなわれた。加島教授は，「東アジアの奇跡」でも知られる 20 世紀後半以降の高度成長のなかで，社会主義体制下の中国工業化の特徴を長期時系列データを利用して概観しながら，地域間の連関性と部門間労働移動の違いに着目した研究が紹介された。中国経済は 1970 年代までは，産業構造の工業化と就業構造の非工業化（第 1 次産業への滞留）があったが，その後の東アジア生産ネットワー

クのなかで滞留労働力が「世界の工場」となる基盤となったとの解説がなされた。加島教授の研究は，中国経済に関心がある研究者，院生，学生にとって有益な論文だと思われる。

第 6 報告では， 牧野邦昭教授の「戦争と経済学者――武村忠雄の軌跡から――」が報告された。牧野教授からは『戦時下の経済学者――経済学と総力戦――』中央公論新社をもとに，戦争協力を理由として戦後の慶應経済学部で教職不適格の判定を受けた武村忠雄の戦時期の軌跡の紹介を通して，経済学者が戦時体制下にどのような役割を担ったのかが紹介された。もともとマルクス経済学者だった武村が，軍部の圧力を避けるために小泉信三によって軍部のブレーンとして推薦されたことや正確に第二次世界大戦の趨勢を予測していたことなどが紹介された。戦争と経済学者について考えさせられる興味深い研究なので，是非とも論文を一読することをお薦めする。

最後の第 7 報告では白塚重典教授の「中央銀行デジタル通貨と金融システム」が報告された。暗号通貨や電子マネーなど中央銀行以外が発行主体であるデジタル通貨の利用が広がりを見せているなか，我が国でも，新たな決済手段として中央銀行デジタル通貨（CBDC）の開発が検討され，実証実験が 2021 年から開始された。白塚教授は，CBDC が決済システムの安定性を確保しながら市場機能を活用して決済サービスの効率化・高度化を図り金融制度基盤となりうること，その実現のためには，中央銀行サービスへのアクセス拡大だけでなく，預金保険制度やホールセール決済システムなどの金融制度基盤を包括的かつ大胆に変革させる必要があることを解りやすく解説した。白塚氏の研究は，『三田学会雑誌』第 114 巻 3 号にまとめられているので，是非，一読することをお薦めする。

以上，7 つの報告が半日をかけておこなわれ，報告者を含む 28 名の参加者が個々の専門分野にかかわらず活発な議論をかわし，研究の重要性を確認するとともに，自身の研究を進めるうえで大いに刺激を受けたであろうことからも，テーマにふさわしいシンポジウムになったといえよう。

経済学会は今後も活発な学会活動を企画していきたいが，こうしたシンポジウムが経済学会会員間，さらには学生の皆さんに対する知的波及効果を生む一助となれば幸いである。

テーマ：経済学の新たな挑戦

プログラム：

2021 年 11 月 18 日（木）13：00～17：00

13:00 ～ 13:30　橋口勝利　「近代日本の繊維産業と地域経済」

13:30 ～ 14:00　小西祥文　「脱炭素政策と環境実証」

14:00 ～ 14:30　千賀達朗　「企業による期待形成――サーベイに基づく観察事実――」

14:30 ～ 15:00　笹原　彰　「チャイナショックの影響の実証分析：
手法の整理と文献サーベイ」

15:00 ～ 15:30　コーヒーブレイク

15:30 ～ 16:00　加島　潤　「東アジア工業化と中国社会主義体制」

16:00 ～ 16:30　牧野邦昭　「戦争と経済学者――武村忠雄の軌跡から――」

16:30 ～ 17:00　白塚重典　「中央銀行デジタル通貨と金融システム」

会場：慶應義塾大学三田キャンパス・北館 3 階 大会議室

参加者（50 音順，敬称略）：

池田幸弘（常任理事）　駒形哲哉（経済学部教授）
石井　太（経済学部教授）　笹原　彰（経済学部准教授）
石橋孝次（経済学部教授）　白塚重典（経済学部教授）
一上　響（経済学部教授）　須田伸一（経済学部教授）
井深陽子（経済学部教授）　千賀達朗（経済学部准教授）
大西　広（経済学部教授）　玉田康成（経済学部教授）
加島　潤（経済学部教授）　津曲正俊（経済学部教授）
河井啓希（経済学部教授）　中妻照雄（経済学部教授）
河端瑞貴（経済学部教授）　中西　聡（経済学部教授）
川俣雅弘（経済学部教授）　橋口勝利（経済学部教授）
木村福成（経済学部教授）　藤原グレーヴァ香子（経済学部教授）
栗野盛光（経済学部教授）　星野崇宏（経済学部教授）
小西祥文（経済学部教授）　牧野邦昭（経済学部教授）
小林慶一郎（経済学部教授）　松沢裕作（経済学部教授）

以上　28 人